

令和5年度国内希少野生動植物種新規指定候補種の概要

表1 令和5年度の国内希少野生動植物種の指定候補種一覧

綱名	目	種名	卵・種子の指定
昆虫綱	ごきぶり目	むかしごきぶり科	
		<i>Eucorydia donanensis</i> (ウスオビルリゴキブリ)	
		<i>Eucorydia miyakoensis</i> (ベニエリルリゴキブリ)	●
唇脚綱	おおむかで目	おおむかで科	
		<i>Scolopendra alcyona</i> (リュウジンオオムカデ)	
植物界		まめ科	
		<i>Sophora franchetiana</i> (ツクシムレスズメ)	
		らん科	
		<i>Disperis neilgherrensis</i> (ジョウロウラン)	
		ゆきのした科	
	<i>Deutzia hatusimae</i> (コミノヒメウツギ)		

令和5年度新規指定候補種の概要

＜昆虫類＞

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>1. ウスオビルリゴキブリ (<i>Eucorydia donanensis</i>)</p> <p>分類：ムカシゴキブリ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：EN相当 (未掲載)※</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>オスの体長は12.5～14.5mm。ルリゴキブリ・アカボシルリゴキブリに似るが、ウスオビルリゴキブリのオスの腹部背面は全体が黒紫色を呈するのに対し、ルリゴキブリ・アカボシルリゴキブリの腹部背側面の一部(第3～5節)は橙色を呈する。前翅に不明瞭な橙色の帯状紋をもつ。帯状紋は一続きにならず、1回または2回途切れる。前翅に橙色の帯状紋があることに加え、腹部全体が黒紫色を呈する種は、本属の中では本種のみである。</p> <p>湿った林内の立ち枯れの樹洞に溜まったフレーク中、シロアリなどが穿孔した腐朽材などに生息する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 沖縄(与那国島) (国内・現状不明) 沖縄(石垣島)</p>
		③存続を脅かす要因	<p>森林伐採による生息地の消失・減少、捕獲。</p>
		④その他	<p>・種の保存法 緊急指定種</p> <p>分布域の一部は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 <p>※環境省レッドリスト昆虫類分科会において、「当該種の個体数は減少傾向にあると考えられ、環境省レッドリストではEN相当である」と評価された。(令和5年6月)</p>



©柳澤 静磨

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>2. ベニエリルリゴキブリ (<i>Eucorydia miyakoensis</i>)</p> <p>分類：ムカシゴキブリ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：CR相当 (未掲載) ※</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p>  <p>©柳澤 静磨</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>オスの全長は12.5～13.0mm、オスメスともに上翅の基部に黄赤色の微毛を有し、上翅中央部には明瞭な黄赤色の帯状紋を持つ。類似種のウスオビルリゴキブリやアカボシルリゴキブリ、ルリゴキブリには上翅基部に黄赤色の微毛を持たないため、重要な識別点となる。</p> <p>林内のシロアリが穿孔した腐朽材中などに生息する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 沖縄 (宮古島)</p>
		③存続を脅かす要因	<p>開発等による生息地の消失・減少、外来種 (アリ類) による競合、捕獲。</p>
		④その他	<p>・種の保存法 緊急指定種</p> <p>分布域の一部は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 <p>※環境省レッドリスト昆虫類分科会において、「当該種の個体数は減少傾向にあると考えられ、環境省レッドリストではCR相当である」と評価された。(令和5年6月)</p>

＜唇脚類＞

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>3. リュウジンオオムカデ (<i>Scolopendra alcyona</i>)</p> <p>分類：オオムカデ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：EN相当 (未掲載) ※</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p> 	ウ、エ	①種の特徴	<p>オオムカデ属としては日本最大種であり、成体の体長は25cm程になる。体色は黒色、腹部は濃紺色を呈する。歩肢は青緑色を呈するが、久米島の個体群は黄色となる。曳航肢は淡青色で、頭部はやや赤褐色を呈する。リュウジンオオムカデは頭部の平行線が不完全となるが、アオズムカデでは完全となる。触角節数は17-20節。基部から6節は毛がまばらで光沢がある。アオズムカデを除く国内産の他のムカデ類は、第20歩肢第1跗節の腹面に棘があるが、リュウジンオオムカデでは棘を欠く。腹部は第4～6節から始まる。(アオズムカデでは第3～4節から始まる。)</p> <p>餌となる甲殻類が生息できるような森林内の流れの緩やかな沢に生息する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 沖縄(沖縄島、渡嘉敷島、久米島、石垣島、西表島) (国外) 台湾</p>
		③存続を脅かす要因	<p>捕獲、採集行為(石起こし)に伴う生息環境悪化、河川整備等による赤土の流出に伴う餌資源(甲殻類)の消失。</p>
		④その他	<p>・種の保存法 緊急指定種</p> <p>分布域の一部は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・県立自然公園 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 ・森林生態系保護地域 <p>※環境省レッドリスト陸域その他無脊椎動物分科会において、「当該種の個体数は減少傾向にあると考えられ、環境省レッドリストではEN相当である」と評価された。(令和5年6月)</p>

＜維管束植物＞

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>4. ツクシムレスズメ (<i>Sophora franchetiana</i>)</p> <p>分類：マメ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p>  <p align="right">©南谷忠志</p>	ウ	①種の特徴	<p>常緑低木。</p> <p>若枝は草状、緑色で褐色の圧軟毛を密布し、のち無毛となる。葉は奇数羽状複葉、11－15枚の小葉をつけ、側小葉は互生あるいはほぼ対生する。托葉は線形、長さ約5mm。小葉は楕円形で鋭頭、長さ2.5－5cm、表面はやや無毛、裏面と縁に伏した褐色の短毛を密生する。小托葉はない。花序は頂生し、総状で長さ8－15cm、苞は線形、長さ3－5mm、花柄とほぼ同長。小苞はない。花は白色、萼は長さ約5mm、基部は斜形、萼裂片は短く、花柄とともに褐色の短毛を密布する。旗弁は長楕円形で凹頭、長さ1.2－1.4cm、基部で立ち上がり、花時翼弁とほぼ直角に開出する。翼弁は竜骨弁より長さ1－1.1cm、ほぼ円頭、竜骨弁は鈍頭。豆果は長さ4－6cm、1幅約1.2cm。</p> <p>溪谷沿いの湿った林内に生育する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存)</p> <p>熊本、宮崎、鹿児島</p> <p>(国外)</p> <p>中国南部</p>
		③存続を脅かす要因	<p>開発等に伴う生育地の減少、河川開発、道路工事、遷移進行。</p>
		④その他	<p>生育地の一部は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県指定鳥獣保護区 ・国指定天然記念物、市町村指定天然記念物

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>5. ジョウロウラン (<i>Disperis neilgherrensis</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>指定区分：国内希少野生動物種</p>  <p>©(一財)沖縄美ら島財団 阿部篤志</p>	ウ	①種の特徴	<p>多年生草本。 楕円形の塊根がある。葉は1～数個ついて無柄、基部は茎を抱く。花は頂生し、1～数個を総状につける。背萼片と側花弁は合着、あるいは接して唇弁と蕊柱をおおう。側萼片も基部で合着する種がある。唇弁は3裂。蕊柱は短い。葯は葯隔が幅広く、葯室は離生する。花粉塊は2個、長い柄がある。小嘴体は大きく、柱頭は2個で小嘴体の基部にある。 山地自然林の暗い林床に生育する。</p>
		②分布域	<p>(国内・現存) 沖縄 (石垣島) (国内・現状不明) 沖縄 (西表島) (国外) 台湾、熱帯アジア、ニューギニア、ミクロネシア</p>
		③存続を脅かす要因	<p>生育地の踏み荒らしや伐採に対して脆弱。開発の懸念。産地局限。</p>
		④その他	<p>他法令及び都道府県条例等に基づく指定状況は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西表石垣国立公園指定植物 ・石垣市自然環境保全条例保全種 <p>生育地の一部は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>6. コミノヒメウツギ (<i>Deutzia hatusimae</i>)</p> <p>分類：ユキノシタ科</p> <p>環境省RLカテゴリー：絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>日本固有</p> <p>指定区分：国内希少野生動植物種</p> 	ウ	①種の特徴	<p>落葉低木～小高木。 高さ1.5－3mで、よく分枝する。葉は淡緑色で、短い枝をもち、葉身は狭披針形から長楕円状披針形で、長さ4.5－8cm、幅2.5－3.5cmになり、先は漸尖形または鋭形、基部は鈍形またはくさび形で表面には4－6枝をもつ星状毛が散生し、裏面には5－7枝からなる星状毛を散生する。花は多数が今年枝から出る細長い複2出集散花序につく。花筒と萼片には7－11枝の星状毛が密生する。花弁は長楕円形、長さ4.5－6mmで、先は鈍形。雄蕊は内輪のものが長さ5－6mm、外輪のものは6.2－7.8mmで、花糸には不明瞭な歯がある。朔果は小さく、径約1.5mmである。染色体数は2n=26。本種は幅2.5－3.5cmの狭い葉、花弁よりも長い雄蕊、径約1.5mmにしか達しない小さな朔果をもつことで、日本産の本属他種から明瞭に区別できる。 石灰岩地に生育する。</p>
		②分布域	(国内・現存) 大分、宮崎
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生育地の減少、石灰岩採掘、土地造成、道路工事、遷移進行、岩壁の崩壊、草刈り・伐採・除去。
		④その他	生育地の一部は以下に含まれる可能性がある。 ・県立自然公園 ・国指定天然記念物

※選定要件について

○ 希少野生動植物種保存基本方針(平成30年4月17日環境省告示第38号) (抄)

第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項

1 国内希少野生動植物種

(1)国内希少野生動植物種については、その本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）で、以下のいずれかに該当するものを選定（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成四年法律第七十五号。以下、第八を除き「法」という。）に基づく指定ではなく、同法に基づき指定すべき種の選定を指す。以下同じ。）する。

ア その存続に支障を来す程度に個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつあり、その存続に支障を来す事情がある種

イ 全国の分布域の相当部分で生息地等が消滅しつつあることにより、その存続に支障を来す事情がある種

ウ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化により、その存続に支障を来す事情がある種

エ 分布域が限定されており、かつ、生息地等における過度の捕獲又は採取により、その存続に支障を来す事情がある種

令和5年度 国内希少野生動植物種の選定に関する検討会（非公開）

意見概要

1. 日時

令和5（2023）年6月27日（火）9:30～12:00

2. 出席者

＜検討委員＞（五十音順 敬称略）

石井 信夫	東京女子大学 名誉教授
石井 実	大阪府立大学 名誉教授 ／地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長
海老原 淳	独立行政法人国立科学博物館 研究主幹
尾崎 清明	公益財団法人山階鳥類研究所 副所長
角野 康郎	神戸大学 名誉教授
近藤 高貴	大阪教育大学 名誉教授
島野 智之	法政大学自然科学センター 教授
白山 義久	京都大学 名誉教授
中静 透	国立研究開発法人森林研究・整備機構 理事長【御欠席】
中峰 空	箕面公園昆虫館 館長
中村 太士	国立大学法人北海道大学大学院農学研究院 教授
成島 悦雄	公益社団法人日本動物園水族館協会 顧問
細谷 和海	近畿大学 名誉教授
南谷 忠志	宮崎植物研究会 会長
横田 昌嗣	琉球大学 名誉教授
吉田 正人	国立大学法人筑波大学人間総合科学学術院世界遺産学学位プログラム 教授

＜環境省＞

中澤 圭一	自然環境局野生生物課長
尾崎 由布子	自然環境局野生生物課野生生物専門官
河野 通治	自然環境局野生生物課希少種保全推進室長
谷垣 佐智子	自然環境局野生生物課希少種保全推進室 室長補佐
早瀬 穂奈実	自然環境局野生生物課希少種保全推進室 指定検討第一係長
皆藤 琢磨	自然環境局野生生物課希少種保全推進室 指定検討第二係長

＜事務局＞

一般財団法人自然環境研究センター

3. 各種に対する意見概要

今回科学委員会に提示した候補種に係る意見は次のとおり。

【昆虫類】

- ・ ベニエリルリゴキブリについては分布域が非常に限定されているため、国内希少種への指定が妥当と思う。
- ・ ウスオビルリゴキブリについてはベニエリルリゴキブリほど分布域が狭くなく、与那国島では人がアクセスできないような場所にも生息する可能性があるため特定第二種への指定も考えられる。しかし、保全活動が実質困難であることや、愛好家による飼育目的の捕獲は規制できないことから、特定第二種へ指定することのメリットは感じられない。また、ルリゴキブリ類の捕獲には生息場所となる朽ち木の破壊が伴うため、捕獲は生息環境の悪化に繋がる。したがって、ウスオビルリゴキブリについても国内希少種への指定が妥当と考えている。
- ・ ルリゴキブリ類の捕獲圧について、クワガタ類に比べれば飼育の愛好家の数は少ないが、近年では昆虫館施設による普及啓発の成果もあって、ゴキブリ類の注目度が高まっている。特に、ルリゴキブリの仲間はゴキブリ類の中でも美麗であるため、人気のある種となっており、飼育目的の愛好家による捕獲圧が懸念される。

【唇脚類】

- ・ リュウジンオオムカデは2021年に、半水棲のオオムカデとしては世界で3種目に新種記載された種である。新種記載される以前からインターネット上で高額で取引されていたため、新種記載と同時に種の保存法における緊急指定種に指定された経緯がある。
- ・ リュウジンオオムカデは溪流沿いの石裏等に生息し、餌資源として甲殻類を必要とするため飼育が難しい。また、他のオオムカデ類に比べて1回の産卵数は少ないと考えられ、成熟までに要する時間も5年と長い。野外における生息密度も極めて低いため、野生下における成体の捕獲はそのまま個体群の減少に繋がるおそれがある。
- ・ リュウジンオオムカデの捕獲の目的は飼育目的が主であると考えている。海外からの依頼により捕獲される例や生息地の溪流沿いの石が軒並み起こされていた例もあった。

【維管束植物】

- ・ ツクシムレスズメは国内では川沿いの土壤に生育し、宮崎県では生育地が3か所あったものの、そのうち1か所では個体が見られなくなった。木本だが寿命は長くなく、直径2~3cmになると枯れていくようだ。積極的な保全をしなければ存続が難しい種であると思う。
- ・ ツクシムレスズメは攪乱環境に生育する種でもあり、指定により保全活動に支障をきたすことがないようにご検討いただきたい。
- ・ ジョウロウランはマッチ棒程度の大きさしかなく、花も非常に小さい。出現時期は8月上旬の2週間程度であり、生育地も局限されている。これまで流通しているという

情報はないが、観賞価値はあり、今後ジョウロウランが栽培の対象になる可能性もあると思われる。

- ・ **ジョウロウラン**については自生地環境そのものを保全する必要があり、土地所有者に情報共有する等、場を保全するような方針を検討いただきたい。
- ・ **コミノヒメウツギ**は、九州の石灰岩地に生育する。大分県、宮崎県で生育を確認している。